

**製品名: XPLN ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19962**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ARHGEF3
別名	ARHGEF3; Rho guanine nucleotide exchange factor 3; Exchange factor found in platelets and leukemic and neuronal tissues; XPLN
遺伝子 ID	50650.0
SwissProt ID	Q9NR81
免疫原	抗血清はヒト ARHGEF3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 456-505

**背景**

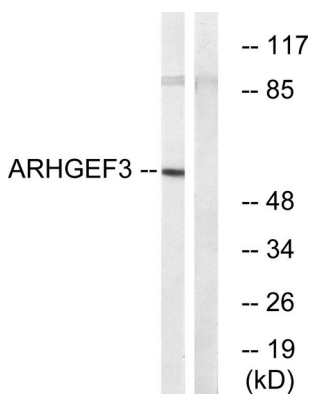
Rho 様 GTPase は様々な細胞プロセスに関与しており、GTP との結合により活性化され、また、その固有の GTPase 活性により GTP

から GDP への変換により不活性化されます。グアニンヌクレオチド交換因子 ( GEF ) は、結合した GDP の遊離を触媒することで、Rho GTPase の GTPase 活性を促進します。この遺伝子は、骨細胞生物学において役割を果たす Rho GTPase ファミリーの 2 つのメンバー、RHOA と RHOB を特異的に活性化するグアニンヌクレオチド交換因子をコードしています。この遺伝子の遺伝的変異は骨密度 ( BMD ) の決定に役割を果たしていることが判明しており、閉経後骨粗鬆症におけるこの遺伝子の関与を示唆しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: RhoA および RhoB GTPase のグアニンヌクレオチド交換因子 ( GEF ) として作用する。、類似性: DH ( DBL 相同 ) ドメインを 1 つ含む。、類似性: PH ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: RHOA および RHOB と相互作用する。、組織特異性: 広く発現している。成人の脳と骨格筋に最も多く存在し、心臓と腎臓にも比較的少ない。、

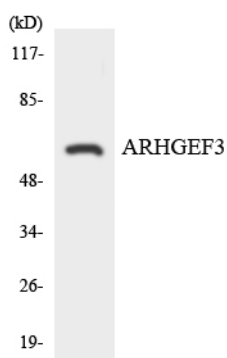
## 研究分野

アクチンダイナミクスの制御; AMPK

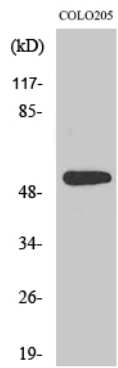
## 画像データ



ARHGEF3 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ARHGEF3 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



XPLN ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。